

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

2019 No.517

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



2018年度 第2回 医療被ばく低減施設 認定取得セミナー 開催報告



2018年11月11日(日)、福井県診療放射線技師会のご支援を得て、福井県立病院で標記セミナーを開催した。診療報酬における施設基準の新設や線量の記録義務化など、放射線利用の正当化と防護の最適化がクローズアップされている背景もあり、福井県内だけでなく、東北や九州などの遠方からもご参加いただいた。

セミナー1講目は、「医療被ばく低減施設認定取得の意義」と題して、筆者が医療被ばくを取り巻くさまざまな動きと、医療被ばく低減施設認定を取得する意義をお話しさせていただいた。

2講目は、認定施設である福井県立病院 村中良之氏に「医療被ばく低減施設認定への取り組み」と題して、認定取得および更新のために取り組んだ事項や工夫など、多くの事例を交えてご紹介いただいた。講師の村中氏は当該認定審査のサーベイヤーでもあり、受審側と審査側の両方の視点での講演は、多くのヒントが得られたと考える。

3講目は、聖マリアンナ医科大学病院 佐藤寛之氏に「PCXMCについて」と題して、組織臓器線量推計ソフトの概略と透視系検査や治療時の評価方法を中心にご講演いただいた。佐藤氏は認定審査のチーフサーベイヤーであり、審査時に多く見受けられる間違いや勘違いにも触れた内容であった。

4講目は、EPDの開発者である茨城県立医療大学 佐藤齊先生に「EPD (Numerical Dose Determination) について」と題して、線量評価の理論からソフトの使用法まで詳しくご教示いただいた。線量評価ソフトであるEPDは佐藤先生のご厚意で無償提供されており、ユーザー登録をするだけで、茨城県診療放射線技師会のホームページよりソフトのダウンロードが可能である。

5講目は、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所 放射線防護情報統合センター 古場裕介先生に、開発チームで中心的なソフトについて「WAZA-ARIV2について」と題してご講演いただいた。WAZA-ARIV2



は、日々進化しているCTの被ばく線量評価ソフトであり、こちらもユーザー登録を要するが、無償で提供されている。本ソフトは、ビジュアル的に分かりやすい画面構成で、被ばく線量の推計だけでなくデータベースとしての機能も備えており、施設の傾向や他施設との比較も可能となっている。またブラウザーで動作しているため非常に軽く、タブレット端末やスマートフォンでも動作する手軽さが筆者は気に入っている。

6講目は、市立横手病院 藤原理吉氏に「医療被ばく低減施設認定審査の要点」と題してご講演いただいた。認定審査項目や要点に関してはJART誌で幾度も掲載されているが、必須項目やそれに関連した項目を中心に解説された。藤原氏は認定審査のチーフサーベイヤーでもあり、受審施設が陥りやすい間違いや勘違いしやすい項目に対し、ご経験を加味した内容であった。

7講目は質疑応答である。施設での機運の醸成から照射記録に関する事項、放射線診療に係る方々の講習会に関する事項の実務的な内容まで、多岐にわたる内容でのディスカッションが行われた。今回の講師陣は、チーフサーベイヤーを含め4人のサーベイヤーが参加していたが、ご参加いただいた方々の熱意に感銘し閉会となった。

(医療被ばく安全管理委員会 鈴木賢昭)

第53回 大韓民国放射線士協会学術大会 開催される

2018年10月27日(土)・28日(日)に、The K-Hotel Seoul でThe 53rd Annual Meeting of Korea Radiological Technologists Association (第53回大韓民国放射線士協会学術大会)が開催された。今回の学術大会にはアジア地域を中心に8カ国、約75人の外国人を含め、およそ2千人が参加した。日本からは中澤会長、児玉理事が参加した。

学術大会期間中にEACRT (East Asia Conference of Radiological Technologists) 3カ国 (日本・韓国・台湾)の会議があり、主に教育支援プログラムに関する打ち合わせを行った。来年度はインドネシアとマレーシアに対して教育支援を行うこととなったが、インドネシアおよびマレーシア



第53回大韓民国放射線士協会学術大会における各国代表者

と日程の調整を行い、同一週に実施可能な日程と場所であれば、インドネシアとマレーシア2カ国に同時に教育支援を行い、日程的に難しい場合には、マレーシアを優先して教育支援を行うこととなった。なお、教育支援内容としては、本年度実施したMRIが高評価であったため、引き続きMRIをテーマにすることが決定した。

また来年度のEACRTシンポジウムのテーマはCTとなり、日本・韓国・台湾から1人ずつ、20分間のシンポジウム講演を行うことが決定した。来年度のEACRTは2019年10月に韓国のソウルで、第54回大韓民国放射線士協会学術大会と同時に開催される予定である。



EACRT3カ国代表者会議



Welcome Partyでのプレゼント交換

第18回 中華民国医事放射線師協会国際学術大会 開催される

2018年11月3日(土・祝)に、Taichung Veterans General HospitalでThe 18th Annual Meeting and 2018 TAMRT International Forum (第18回中華民国医事放射線師協会国際学術大会)が開催され、アジア地域を中心に11カ国、約70人の外国人を含め、約1,200人が学術大会に参加した。日本からは児玉理事が参加した。

今回の国際学術大会のテーマは「New Challenges or Opportunities: Artificial Intelligence (AI) in Medical Imaging and Radiotherapy」であり、最もホットトピックスなAIがテーマであった。今回の国際学術大会では、医用画像を使用したAI画像処理技術と診断支援技術、アメリカFDAの承認を受けたAI搭載の医療機器の紹介、MRIガイド下の放射線治療技術などの講演があった。

台湾にはTWSRT (中華民国医事放射学会) と TAMRT (中華民国医事放射線師協会) があり、TWSRTは学会、TAMRTは職能団体となっている。台湾の診療放射線技師は免許更新

制であり、有資格者は全員がTAMRTの会員となるため、TAMRTの会員数は約6千人である。またTAMRTは台湾の行政院から補助金を受けて毎年International Forum (国際学術大会) を開催しているが、今回のInternational Forumでは厚生労働大臣が出席し、祝辞を述べた。



オープニングセレモニー



TAMRT会長とのプレゼント交換

第1回 画像等手術支援認定講習会 開催される

画像等手術支援認定講習会は、本部基礎技術講習会の一環として昨年度まで6回実施されてきたが、本年度から分科会単独で行われることとなった。記念すべき第1回の講習会は2018年10月28日(日)、新潟大学脳研究所附属統合脳機能研究センター 6Fセミナーホールで開催された。講師8人、8領域8時間を丸一日かけて行うハードな内容であったが、全国から79人の受講者があり、滞りなく講習会は終了した。この講習会の案内については、現在、本会会誌のお知らせとホームページで行われているが、各分科会のイベントスケジュールと講習会会告については探しづらいのが現状である。また本分科会の活動が3年目でありながら、会員に浸透していないのも事実である。改めて簡単に述べると『画像等手術支援分科会の活動目的は、臨床に役立つ3次元画像作成技術を根本的に学習してもらい、暗黙知である技量を形式知に変換し、疾患に対する3次元画像の標準化を目標に置き、各施設間で作成している3次元画像の解釈の温度差を軽減する』ことである。今後は、3次元画像処理の専門認定技師が各施設で必要不可欠であることを広報し、各施設の診療放射線技師定員増に努め、患者の支援(診断・手術)画像として認知度を拡張する。それには、新たに650時間のカリキュラムを修了しなくてはならない。ただし、数年間は認定講習会を受講していただければそれを免除することになっているが、その免除の期間は現在検討中である。この認定技師制度は本会から発足し、諸外国と同様に責任ある仕事として進める事

業と位置付けている。受講者にとって1日8領域は大変ハードな内容だと思う。しかし、認定試験を受験するには受講は必須であり、必ず年1回開催する試験に合格しなければ認定資格は取得できない。このような専門技師資格は必要であり、患者さんに向き合える仕事の一環として再認識していただき、講習会参加後は持ち帰った内容を実践し、日々の精進でより良い3次元画像を作成していただければと思う。この講習会は年に3回ほど企画しているので、本会会誌の会告とホームページなどをチェックしていただきたい。最後に、本講習会の講師と担当領域をご紹介します。



- 石風呂 実 (広島大学病院) 救急領域
- 牛尾 哲敏 (滋賀医科大学医学部附属病院) 胸部領域
- 金沢 勉 (新潟大学医歯学総合病院) 画像処理表示法
- 立石 敏樹 (国立病院機構宮城病院) 心血管・大血管領域
- 富田 博信 (埼玉県済生会川口総合病院) 腹部領域
- 野水 敏行 (富山労災病院) 骨軟部領域
- 平野 透 (札幌医科大学附属病院) 脳神経・頭部領域
- 山本 浩之 (倉敷中央病院) 消化管領域

第16回 読影セミナー 開催される

2018年11月11日(日)、りんくう総合医療センター教育研修棟で第16回読影セミナーが開催された。参加者は45人であった。

今回は「脳卒中、大血管疾患の画像診断および撮影と読影の補助、画像再構成」と題し、急性期対応の重要な疾患に焦点を絞った内容とした。

講義は、医師から実際の現場で必要な画像と、発症から診断・治療・救命までの時間的制約と要点が臨床症例と共に明確に示された。診療放射線技師からは、脳卒中および大血管疾患を迅速かつ正確に診断するための撮影法・画像処理などが、実際のワークステーションを用いて具体的に示された。

今回、医師による講演において読影補助の有用性と推進の必要性の言葉があり、今後の環境整備のための読影分科会の責務を改めて実感し



た。まさに救命救急の現場で技師の裁量が患者の生命に大きく影響する内容が含まれ、講師そして受講者にも、いつも以上の熱意が感じられた素晴らしいセミナーとなった。

第8回 東北放射線医療技術 学術大会 開催される

公益社団法人日本診療放射線技師会
東北地域理事 船水 憲一

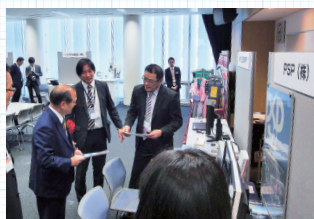
2018年11月3日(土・祝)・4日(日)の2日間、いわて県情報交流センター アイーナで第8回東北放射線医療技術学術大会が開催されました。本大会は、2018年度(公社)日本診療放射線技師会東北地域学術大会、ならびに(公社)日本放射線技術学会東北支部第56回学術大会の合同開催として行われました。

今回のテーマは『未来へつなぐ医療への架け橋』、副題に「放射線技術が診療に貢献できること」とし、チーム医療の一員として専門職の自覚を持ち、研鑽を積み、個々の技術を向上させ、さらに医療に貢献していく姿をみんなで語り合う大会を目指しました。

以下に、大会内容をご紹介します。

岩手県は今、人類初となる全世界共同出資の研究施設「国際リニアコライダー (International Linear Collider / ILC)」の建設候補地として注目されています。市民公開講座では「国際リニアコライダー」について、岩手大学理工学部 物理・材料理工学科 成田晋也教授にご講演いただきました。素粒子の話から加速器の建設・運用に至るまで、岩手を中心とした東北の発展に関わるお話を大変分かりやすくご教授いただきました。

特別講演は、「放射線検査と受診者コミュニケーションを考える—ソーシャルワーク的視点から—」と題して、独立行政法人地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院放射線科 地域連携室併任 原田淳也先生にご講演いただきました。先生は、診療放射線技師と社会福祉士・介護支援専門員という資格をお持ちで、ソーシャルワーカーの視点から診療放射線技師の受診者へのアプローチについてお話しいただきました。会場の知らない人同士をペアにしてのコミュニケーション体験など内容もユニークで、あっという間の1時間でした。



シンポジウムは「放射線検査における検査説明と相談」をテーマに、CT・一般撮影・MRIを中心とした現状と課題に関して、またチーム医療の推進では、検診施設の立場から、接遇の観点からの進め方に関して議論致しました。その他、一般研究発表、恒例のテクニカルミーティング、ソリューションカンファランス、東北地域女性活躍推進班「みちのくこまち」企画も開催されました。さらにハンズオンセミナーでは、下肢静脈DVTエコーが開催されました。

- 本大会の優秀な演題に送られる学術奨励賞は、
- 宮城県立こども病院 佐々木正臣氏
「小児心臓MRI検査における水平長軸および垂直長軸CINE撮影での断面自動設定機能の検討」
 - 市立秋田総合病院 工藤和也氏
「秋田県における同一人体ファントムを用いたCT検査の被ばく線量指標の調査結果の検討」
 - 岩手医科大学附属病院 工藤大和氏
「危険予知トレーニング実践報告」
 - つがる総合病院 佐藤栄博氏
「当院における異常所見緊急報告体制の構築と問題点」
 - 太田西ノ内病院 庭山 洋氏
「体表監視装置を用いた皮膚マーカース放射線治療におけるセットアップエラーの検討」
 - 山形県立中央病院 今野雅彦氏
「3Dワークステーションと市販データベースで作成したTAVI台帳の連携の有用性について」
- に決まりました。代表として、市立秋田総合病院 工藤和也氏に、本会 中澤靖夫会長が一言を添えて表彰状を授与致しました。

一般演題数は108題、参加登録者数は565人、情報交換会参加者は236人と、東北放射線医療技術学術大会の2巡目は、好スタートを切ったと確信できた大会になりました。

最後になりますが、本大会の開催にご尽力いただきました永峰正幸大会長、村中健太実行委員長、ならびに実行委員の皆さま、協賛企業の皆さまに心より感謝とお礼を申し上げます。

来年度は、宮城県での開催となります。

第11回 中部放射線医療技術 学術大会 開催報告

公益社団法人日本診療放射線技師会
中日本地域理事 山本 英雄

2018年11月17日(土)・18日(日)の2日間、富山市の富山国際会議場で第11回中部放射線医療技術学術大会が開催されました。本学術大会は、公益社団法人日本放射線技術学会中部支部と中日本地域の各県(診療)放射線技師会の合同開催であり、大会長の日本放射線技術学会中部支部 森 光一理事、副大会長の富山県診療放射線技師会 石浦幸成会長の下に執り行われました。

大会テーマは「照于一隅～一隅を照らす放射線医療技術～」とし、「自分に与えられた場所で一生懸命努力している人こそ国の宝である」という意味から、われわれに与えられた放射線医療技術という一隅で、地道に研究してきた成果を公開する場として中部放射線医療技術学術大会を位置付け、大会長をはじめ富山県の診療放射線技師の皆さんの思いが込められた大会となりました。

参加人数は651人(会員558人、非会員35人、学生会員58人)でした。会場はJR富山駅より徒歩10分、会場の目の前に富山城、遠方には雄大な立山連峰が一望でき、路面電車も走っており交通の便も良く、快適に学ぶことができました。

大会内容は、一般演題126演題、特別講演1、特別企画1、シンポジウム1、教育講演1、入門セミナー1、臨床セミナー1、女性活躍推進班パネルディスカッション1、市民公開講座1、教育セミナー4、読影補助技術向上セミナー4、ランチョンセミナー8、ハンズオンセミナー4、また広告協賛24社、展示協賛20社でした。

特別企画「医療被ばく管理について」では、日本放射線技術学会側として松原孝祐先生が「医療被ばく管理に関する動向一線量指標の活用と今後の展望」、日本診療放射線技師会副会長 佐野幹夫先生が「日本診療放射線技師会の現状と課題～医療被ばく低減における取り組み～」の講演があり、おのおのの立場から診療放射線技



師が目指す方向性・課題を示唆されました。

特別講演は、野口 京先生による「急性期脳梗塞治療における非造影Dual-energy CTによる“One-stop Diagnosis”」と題し、頭部領域の非造影Dual-Energy CTアプリケーションについてのご講演。教育講演は、小倉明夫先生による「学術研究の始め方と論文作成の基礎」で、研究初心者向けに分かりやすく解説していただきました。

市民公開講座では、3Dバイオプリンティング研究の世界的先駆者 中村真人先生による「機械で臓器を作るか? 医工学による医療の進歩への挑戦」の講演があり、ご自身の歩んでこられた中から、今回の題名に含まれる「挑戦」について詳しく述べられ、想像を超える医学の進歩に驚かされました。これらの講演を拝聴し、ノーベル賞を多く輩出している富山の誇りを感じ取ることができました。

意見交換会は、会場を国際会議場ホワイエに移し、総勢160人の参加者は富山県の名物「ます寿司」の食べ比べ、各県の銘酒などのおもてなしで迎えられ、皆さまと共に楽しいひとときを過ごすことができました。

大会開催に際し、ご尽力いただきました関係各位に感謝して報告と致します。

来年度の第12回中部放射線医療技術学術大会は、大会テーマ「chanc challenge change～新たな時代に道を拓く～」と題して、2019年11月30日(土)、12月1日(日)、静岡県「アクトシティ浜松 コンgressセンター」で開催予定です。今大会同様、盛会に開催されますことをお祈り致します。



第13回 九州放射線医療技術 学術大会 報告記

公益社団法人日本診療放射線技師会
九州地域理事 江藤 芳浩



2018年11月10日(土)・11日(日)、沖縄県那覇市の沖縄県男女共同参画センター『ていある』およびパシフィックホテル沖縄において第13回九州放射線医療技術学術大会が、青山信和大会長、長野 篤実行委員長の下、大会テーマ「放射線技術学の安心・安全な継承～被ばくについて考える～」と題して開催された。

本大会は(公社)日本診療放射線技師会、九州地域放射線技師会、(公社)日本放射線技術学会の合同開催であり、九州8県の持ち回りで開催されている。13回目となる本大会は、発表演題数184演題、参加者数714人と盛大に開催された。

特別講演は、東京医療保健大学副学長(大学院看護学研究科長)草間朋子教授に「看護界が取り組んでいる放射線に関する課題と診療放射線技師との連携・協働」と題してご講演いただいた。シンポジウムは「DRLsの今後」をテーマに、山梨大学医学部附属病院 放射線部 診療放射線技師長 坂本 肇氏に基調講演「DRLs 2015の今後」と題してご講演いただき、続いて福岡大学病院放射線部 上野登喜生氏より「CTの線量情報収集について」、熊本大学医学部附属病院 医療技術部 診療放射線技術部 栃原秀一氏より「一般撮影分野における線量情報システムによる線量の最適化」、九州大学病院 医療技術部 放射線部門 粟元伸一氏より「核医学検査におけるDRLの現状と今後」と題して、3演題のご講演を頂いた。またランチョンセミナーの3企画のうち、九州地域放射線技師会企画として「診療放射線技師に必要な放射線生物の基礎～放射線被ばくによるがん発生を遺伝子の視点から考える～」と題して、大分県立看護科学大学 小嶋

光明准教授にご講演いただいた。その他、実行委員企画として「放射性同位元素等の規制に関する法律に関して」「IGRTの線量を測る」「放射線診療従事者の被ばくと防護」の3企画など、放射線被ばく・放射線管理に関する多くの講演企画が行われ、診療放射線技師が安心・安全な医療を提供するため、放射線管理や医療被ばくについて改めて考える素晴らしい大会となった。市民公開講座では「正しく知ろう! 乳がんのこと」と題して、那覇西クリニック 乳腺科 診療部長 玉城研太郎先生に基調講演を頂き、多数の市民にご来場いただいた。

恒例の情報交換会は、大会初日にパシフィックホテル沖縄で開催され、参加者数210人と大変盛会であった。沖縄の食とお酒、さらに九州各県から寄贈された焼酎・日本酒に舌鼓を打ちながら、会員相互の交流と親睦を深めていただく良い機会となった。

沖縄県大会は、交通アクセスの関係で他県に比べ参加人数・演題数が比較的少ないと想定していたが、他県に全く引けを取らないほど大盛会であった。本大会の成功は、青山大会長、長野実行委員長はじめ大会実行委員の方々のご尽力と、九州各県会員が大会を盛り上げようとする気持ちが成功裏に導いたものであり、本大会に関わっていただいた全ての皆さまに心より感謝申し上げる次第である。また九州放射線医療技術学術大会の今後のますますの発展に期待している。

次回、第14回九州放射線医療技術学術大会は、2019年11月9日(土)・10日(日)、熊本市の熊本城ホールにおいて大会テーマ「ReBORN～未来への創造と伝承～」と題し、西小野昭人大会長の下、開催予定である。



本会の動き

学術大会実行委員会より

例年、9月に3日間の開催期間で、本会主催の日本診療放射線技師学術大会が全国各地域で盛会に開催されている。全国47都道府県から立候補を募り、理事会で開催県を決定しているが、本年度は山口県下関で、第34回日本診療放射線技師学術大会が開催された。大会に向け、開催県の各実行委員は3年前より準備に取り掛かり、少しでも全国各地域から訪れる会員に満足していただくために、趣向を凝らしながら当日を迎えるのである。特に、大会長や実行委員長の苦労は計り知れない。

実は、私も7年前に愛知県名古屋の地で、大会長という重圧の中、開催県としての経験をさせていただいた。やり終えてみると、開催前の準備での苦労は吹っ飛び、達成感が今でも脳裏に焼き付いており、その後の活動において県役員の一体感がより強く図られたように感じた。

さて、本学術大会は日本診療放射線技師会の主催ではあっても、開催県の全面的な協力が必要不可欠であり、多大なるご苦労の上に開催できることは感謝に堪えない。本会と開催県が互

いに連携を密にして、学術大会を成功裏に開催するために、事前に本部から各担当理事が会場視察を行い、合同実行委員会としてプログラム委員会など、開催県の実行委員と綿密な打ち合わせを重ねて本番を迎えるのである。学術大会実行委員会は、開催準備の中心的役割を果たすべく活動をしている。大会内容について、一般演題はもとより開催県の特徴を生かした特別企画や、本会企画であるシンポジウムなどの多岐にわたる検討も、相互の意見調整をしながらプログラムを決定するのである。当日は諸外国や外部からの来賓も多く出席されるため、詳細な打ち合わせが必要となる。

年々、学術大会を運営するに当たり、医療業界も厳しくなり、各メーカーからの協賛が難しい状況になりつつある。今後の学術大会の在り方を検討するべき時期に来ているのではないだろうか。年を追うごとに規模は拡大され、演題数や参加人数も増加の一途をたどり、職能団体として学術大会の在り方を真剣に見直す必要に迫られている。 (文責：副会長 佐野幹夫)

人は人によりて人となる



『わたくしといふ現象は 仮定された有機交流電燈の ひとつの青い照明です (あらゆる透明な幽霊の複合体) 風景やみんなといっしょに せはしくせはしく明滅しながら いかにもたしかにともりつづける 因果交流電燈の ひとつの青い照明です』

これは、ご存じの方も多いと思いますが、宮澤賢治の「春と修羅」の序文冒頭の部分です。大学の時、宮澤賢治をテーマに卒業論文を書いている時に出会ったこの詩は、30年近くたった今でも、何かにつけて思い出します。

この詩には、「銀河鉄道の夜」や「雨ニモマケズ」から感じる彼のイメージとは少し懸け離れたものを感じました。賢治は童話も書き、法華経にも傾倒し、農業にも従事し、学校で教鞭を執るといって、実に多くの顔を持った人ですが、そんな彼の一種独特の感性が詩にも込められています。

外からの刺激にたくさんのことを感じたり考えたりしながら生きていることを、単なる「現象」であると、さらりと表現したこの詩に、不思議な感覚を持ったことを覚えています。当たり前のことですが、何かに出会った瞬間、その刺激が電気信号となって脳に届けられ、脳内でいろんな物質が分泌されて、体中が反応するという現象をわれわれは日々繰り返しています。

その後、技師学校で放射線物理や放射化学を学ぶにつれて、

そもそもわれわれの体は有機化合物の集合体であり、賢治の言う「現象」が、まさに原子・分子レベルで起こっていて、そこに余計な理屈はなく、その個々の化学反応のみで存在していると思うようになりました。そして人と人が出会った時も同じように。まさしくこの詩は私にとっては目からうろこでした。

賢治のメモ書きに「アインシュタイン先生」と書かれたものが見つかっています。アインシュタインの来日は1922年で、賢治が26歳の時でした。来日した年の12月3日、アインシュタインは仙台で講演をしていますが、その講演を賢治が聞いたという記録は残念ながら残っていません。ただ、彼の「ビジテリアン大祭」という作品の中に「相対性学説」という言葉が出てくることから、アインシュタインのことに興味を持っていたことは間違いないのです。

「誰かの為に生きてこそ、人生には価値がある—Life isn't worth living, unless it is lived for someone else.—」アインシュタインの名言ですが、天才科学者の中にある別の顔を賢治は見えていたのかもしれませんが。

宮澤賢治の話になってしまいましたが、これを機に彼の作品に興味を持っていただければ幸いです。

(文責：茂木大志)

INFORMATION

第4回

第35回 日本診療放射線技師学術大会

埼玉への道

埼玉県診療放射線技師会
編集情報委員会より



ちちぶ ながとろ 秩父・長瀬へ行ってみよう

大会会場の大宮から少し離れますが、埼玉の誇れる観光地に「秩父・長瀬」があります。

秩父市は埼玉県の西側にある山間地域です。西武秩父駅のホームに降りると秩父のシンボル「**武甲山**」が迎えてくれます。山肌はセメントの原料である石灰岩の採石が行われたことから、特徴



武甲山

的な形をしています。5月には近くの公園で芝桜が咲き、武甲山と合わせた景観は多くの観光客を引き寄せます。現在も秩父地域周辺では採石が行われていますが、この豊富にある石灰岩や鉱石は長年の雨風による浸食で鍾乳石（洞）なども作られています。その異形とも思える鍾乳石の幻想的な姿・地形には、昔から神聖な場所とされ神社仏閣が建てられています。江戸時代、観音霊場を巡る「**秩父札所巡り**」は、江戸の人々にとって四国のお遍路より近いことから、大変人気があったそうです。現在も札所巡りのツアーが組まれており、バスで気軽に行く体験コースなどもあります。最近では、アニメ「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」「心が叫びたがってるんだ。」の舞台であることから、「聖地巡礼」の場所として現代風の札所巡りが定着しています。ちなみに、食の名物は「**豚肉味噌漬・わらじカツ丼・みそポテト**」などがあります。そして秩父といえば、ユネスコ無形文化遺産に登録された「**秩父夜祭**」です。毎年、12月2日から3日に行われ、40万人近くの人を訪れます。秩父夜祭は秩父神社の重要な例大祭であり、京都の祇園祭、飛騨の高山祭と並び、日本三大曳山祭の一つに数えられています。見どころは、地域を守る神様へ感謝をささげる神事として山車の運行が行われ、4基の山車と2基の笠鉾は豪華絢爛で「動く陽明門（日光東照宮）」といわれています。



秩父夜祭

長瀬町は、東京湾に流れる荒川の上流（源流）に位置し、川の浸食によって作り出された「**岩畳**」で有名です。幅80m、長さ500mにわたる露出した岩石は段丘を作り、その名の通り一面に畳を敷き詰めたかのようです。また地殻内部の様子が地表に現れ直接観察できることから、地質学的にも貴重な場所とされています。この岩畳を舟から見る「**ライン下り**」は人気があり、多くの観光客が訪れます。また予約をすればカヌー・カヤック・ラフティングでの川下りも可能で、エキサイティングな体験もできます。そして長瀬の名物といえば「**かき氷**」です。天然氷で作られるかき氷は、一度は食べる価値があります。

今回は、埼玉の観光地「秩父・長瀬」をご紹介します。ご興味がありましたら、ぜひ足をお運びください。



5月には近くの公園で芝桜が咲き、武甲山と合わせた景観は多くの観光客を引き寄せます。

現在も秩父地域周辺では採石が行われていますが、この豊富にある石灰岩や鉱石は長年の雨風による浸食で鍾乳石（洞）なども作られています。その異形とも思える鍾乳石の幻想的な姿・地形には、昔から神聖な場所とされ神社仏閣が建てられています。江戸時代、観音霊場を巡る「**秩父札所巡り**」は、江戸の人々にとって四国のお遍路より近いことから、大変人気があったそうです。現在も札所巡りのツアーが組まれており、バスで気軽に行く体験コースなどもあります。



みそポテト

また同じ秩父市内ですが、西武秩父駅から電車・バスで1時間半ほどの所に**三峰神社**があります。最近、関東最大のパワースポットとしてよく紹介されていますので、ご興味がありましたらぜひ足を延ばしてみてください。



長瀬ライン下り





第35回 The 35th
Japan Conference of Radiological Technologists(JCRT)

日本診療放射線技師学術大会

国民と共にチーム医療を推進しよう

Let's promote team medical care with the nation

彩の国から未来へ

From Sainokuni to the future

会期
Date

2019年9月14日(土)~16日(月・祝)
September 14(Sat) -16(Mon) , 2019

会場
Venue

大宮ソニックシティ
Omiya Sonic City

会長
President

中澤 靖夫 (公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長)
Yasuo Nakazawa (Japan Association of Radiological Technologists)

大会長
Chairman

田中 宏 (公益社団法人 埼玉県診療放射線技師会 会長)
Hiroshi Tanaka (Saitama Association of Radiological Technologists)

主催
Host

公益社団法人日本診療放射線技師会
Japan Association of Radiological Technologists

共催
Cosponsor

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
Saitama Association of Radiological Technologists

後援
Support

厚生労働省(予定)
Ministry of Health, Labour and Welfare
埼玉県(予定)
Saitama Prefecture
さいたま市教育委員会(予定)
Saitama City Board of Education

運営事務局
Congress Secretariat

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 埼玉県さいたま市北区宮原町2丁目51番39
TEL:048-664-2728 対応時間平日(月~金曜日) 9:00~15:00
Saitama Association of Radiological Technologists Saitama Prefecture Saitama City Kitaku Miyaharacho 2-51-39
Phone:+81-48-664-2728 Correspondence time Weekday (Monday - Friday) 9:00~15:00



『ラジエーションハウス (グランドジャンプ連載中)』 テレビドラマ化決定！

漫画雑誌グランドジャンプ(集英社)で連載中の『ラジエーションハウス』関係者一行が来訪され、テレビドラマ化についての朗報を頂きました。今回お越しになったのは、同漫画の監修を務める五月女康作氏(会員)、株式会社集英社第4編集部次長・企画室室長の藤江健司氏、週刊ジャンプ副編集長の春日井宏往氏、グランドジャンプ編集部の古屋裕司氏です。テレビドラマ化の詳細はまだ明らかにされていませんが、分かり次第、この誌面でお伝えしたいと思います。ぜひ、雑誌・単行本と共にテレビドラマもご覧になってください。



INFORMATION

1月・2月の講習会などスケジュールのご案内

■ Ai認定講習会：	埼玉	1月26日(土)～27日(日)
■ マネジメント研修会：	大阪	1月26日(土)～27日(日)
■ 「看護学」(実習)講習会：	群馬	1月27日(日)
■ 放射線管理地域講習会	愛知	1月27日(日)
■ ナイトセミナー：	東京	1月28日(月)
■ 医療画像情報精度管理士セミナー：	千葉	2月2日(土)
■ 超音波実技講習会「腹部領域」：	東京	2月3日(日)
■ 読影セミナー：	岡山	2月3日(日)
■ 死亡時画像診断(Ai)研修会：	東京	2月10日(日)～11日(月・祝)
■ 放射線被ばく相談員講習会：	東京	2月10日(日)～11日(月・祝)
■ 放射線取扱主任者定期講習：	東京	2月15日(金)
■ 医療被ばく低減施設認定取得セミナー：	三重	2月16日(土)
■ 画像等手術支援認定講習会：	東京	2月17日(日)
■ 災害支援診療放射線技師研修会：	東京	2月24日(日)

INFORMATION

ホームページ閲覧のお願い

「業務拡大に伴う統一講習会」および「診療放射線技師基礎技術講習」の開催日程につきましては、ホームページで随時更新しておりますので、そちらをご参照ください。

- 「業務拡大に伴う統一講習会」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/schedule.html
- 「診療放射線技師基礎技術講習」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/ib0rgt0000004api.html

INFORMATION

65歳以上の方の会費が8,000円になります！

第79回定時総会において「会費等納入規程」の改正があり、2019年度中に65歳を迎える会員、および65歳以上の会員の方の年会費が8,000円となります。次年度の会費請求から実施することになりましたので、お知らせ致します。

これに伴い、会費の終身免除(会費等納入規程第8条)は、5年間の猶予をもって2023年3月末日で終了致します。

なお、50年勤続表彰受賞者で35年以上継続している会員の方の年会費終身免除は、これまで通りです。

※会費の終身免除

第8条 25年または30年勤続表彰受賞者で25年以上継続して会員であり55歳以上の会員は、100,000円を本会に納付し、その旨を申請することにより、翌年度以降の会費は終身にわたって免除される。

INFORMATION

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。